

廃棄物ゼロエミッション(廃棄物減量化対策)

3Rへの取り組みをさらに高度化し、
グループ全体での廃棄物ゼロエミッションの早期達成をめざします。

方針

富士通グループでは、3R(リデュース:発生抑制、リユース:再利用、リサイクル:再資源化)の基本方針のもと、資源循環型社会を見据えたゼロエミッションの早期実現とより高度な3Rへの取り組みに向け、分別徹底推進による従業員一人ひとりが主体性を持った活動を推進します。

第4期環境行動計画の目標

廃棄物発生量を2006年度末までに2003年度実績比3%削減する

富士通グループの ゼロエミッションの考え方

ゼロエミッションから発生抑制へ、
製造から非製造への
ステップアップをはかります。

富士通では、2002年度にすべての製造拠点
で廃棄物のゼロエミッションを達成。国内
のグループ会社についても2003年度までに
3事業所にて達成し、着実にゼロエミッシ
ョン化が進んでおります。今後は、調達段階
での梱包材などの見直しや製造プロセスの
改善などを中心とした、廃棄物の発生量削

減を推進目標に掲げ活動を推進していきま
す。また活動範囲についても製造拠点を中
心に行っていた活動を非製造拠点に拡大し
ていきます。2004年度については自社管轄
ビルの非製造拠点での取り組みを中心に活
動を実施します。

廃棄物発生量削減

- ・定義:事業所より発生する廃棄物量の削減
- ・対象廃棄物:すべての廃棄物(有償化物は除く)

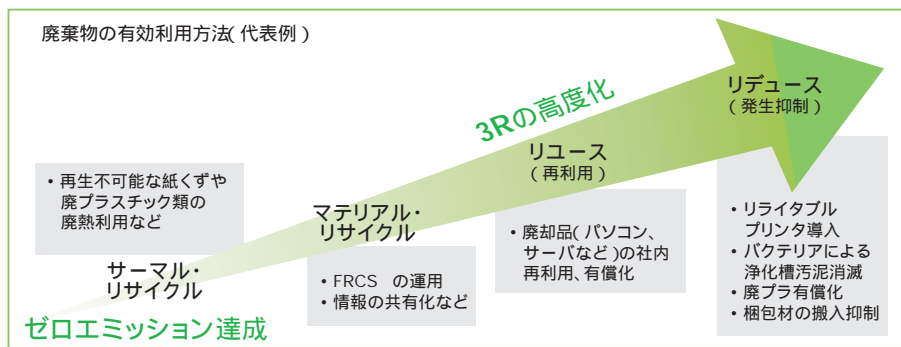
廃棄物ゼロエミッション

- ・定義:廃棄物の有効利用100%化による、埋め立て、単純焼却ゼロ
- ・対象廃棄物:汚泥、廃酸・廃アルカリ、廃プラスチック、廃油、金属くず、ガラスくず、木くず、紙くず、動植物性残さ(食堂ごみ) 浄化槽汚泥

しくみ

廃棄物ゼロエミッション・ ワーキンググループ

廃棄物ゼロエミッション・ワーキンググル
ープを年2回実施し、各事業所の課題検討や
情報の共有化を促進しています。また、社内
イントラネットを利用し、廃棄物取引先情報
の共有化を行っています。こうした取り組み
を通じて、3Rの高度化をさらに推進します。



成果

第3期環境行動計画の目標

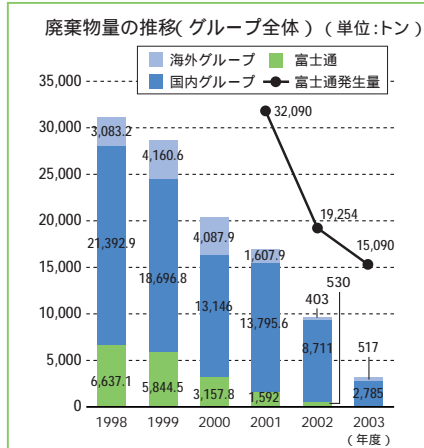
- ・グループ全体で、2003年度末までに廃棄物量を1998年度実績比で60%削減
- ・富士通で、2003年度末までに廃棄物ゼロエミッションを達成

2003年度の実績と分析

グループ全体では2003年度廃棄物量は
3,302トンで、98年度比89%削減となりまし
た。また富士通単独では、2003年度の廃棄
物発生量は15,090トンで、前年度比22%削
減となり、廃棄物削減活動は順調に進捗し
ております。

廃棄物が減少した要因としては、国内グル
ープについては富士通本体のゼロエミッシ
ョン

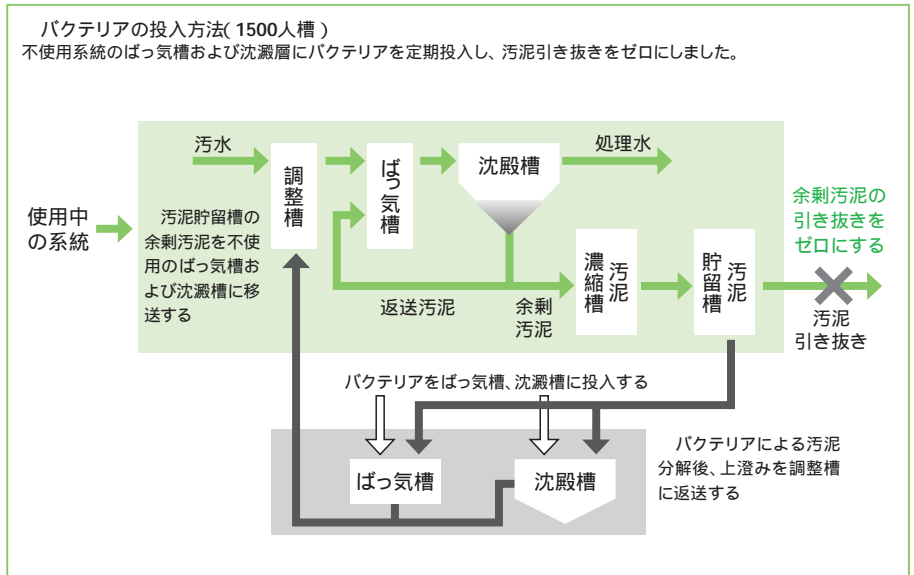
への取り組みの展開、富士通発生量削減に
ついては浄化槽汚泥を分解するバイオ技術
導入などによる削減があげられます。また、
ここ数年の事業形態の変更による減少も一
つの要因となっています。



富士通における廃棄物発生量削減事例

バイオ技術の導入により、浄化槽汚泥の発生ゼロを実現（富士通那須工場）

那須工場における廃棄物ゼロエミッションへの取り組みとして、唯一残っていたのが浄化槽汚泥でした。そこで那須工場ではバイオ菌に着目。ふさわしい適用について検討を重ね、2003年度よりバイオ菌による浄化槽汚泥の分解を開始しました。1年が経過しても汚泥の発生がなく、浄化槽処理水の変化にも対応するなどバイオ菌は安定して機能しています。この取り組みによって、2002年度は151トン発生していた浄化槽汚泥が0トンとなり、発生量削減も実現しました。この技術は富士通グループとしても初の取り組みであり、他の事業所や関連会社でも導入を開始。また、この技術が他の廃棄物へ転用できないかと検討し、現在有機廃液の実証実験を実施しています。



グループ会社 ゼロエミッション取り組み事例

廃プラスチックの約50%の有償化を実現。1年前倒してゼロエミッション達成（富士通アイソテック）

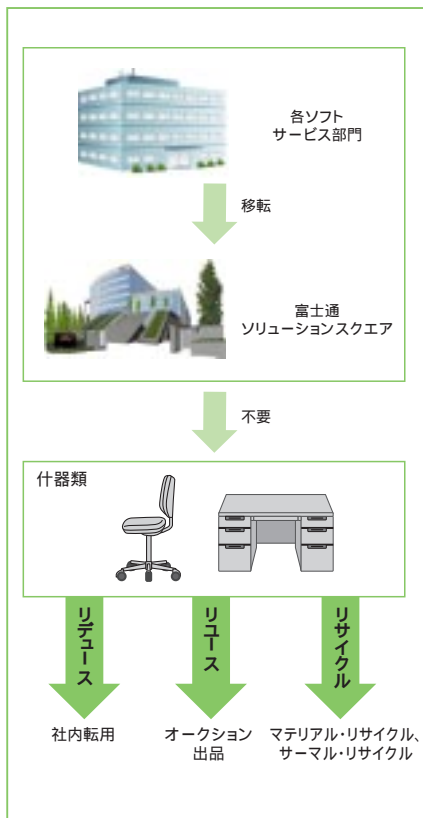
富士通アイソテックはパソコンやIAサーバーの量産工場であり、発生する廃棄物は梱包材を中心として年間3,000トンを超えています。これら多量の廃棄物を削減するさまざまな活動と施策を進めた結果、当初計画の1年前倒してゼロエミッションを達成しました。中でも廃プラスチック類については、材料・材質ごとに10種類に細かく分解、分別することによって、工場内より排出される廃プラスチックの約50%を有償化（再資源化）しており、発生量削減にも寄与しています。



非製造拠点での 廃棄物削減取り組み事例

不要什器類の3Rを実施（富士通ソリューションスクエア）

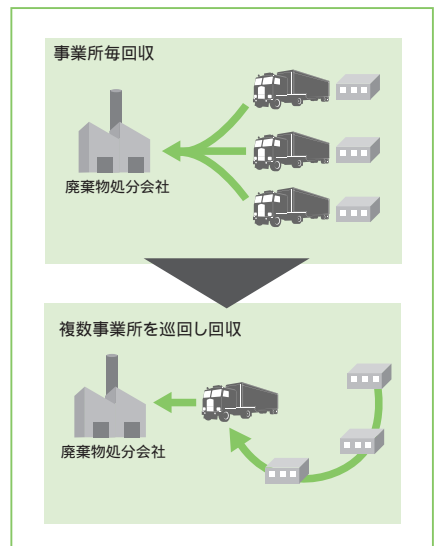
ソフト・サービス部門の富士通ソリューションスクエアの移転に伴い、約22,000台（約700トン）の不要什器類が発生しました。これら什器類は、社内転用（リデュース）やオークションへの出品（リユース）、マテリアル・リサイクル、サーマル・リサイクルを行い、不要什器類のゼロエミッションを実施しました。



その他の事例

3事業所でFRCSの実践開始

各事業所で廃棄物処分会社へ個別に運搬していたものを、近隣の事業所を巡回して回収する取り組み（FRCS）を川崎、南多摩、あきる野で開始しました。廃棄物の運搬車両の減少による、CO₂排出量の削減などの効果が期待できます。



不法投棄関連への対応

当社製品に関わる廃棄物の不法投棄などに関して関係行政より情報照会依頼がありました。当社とは直接関わりがありませんでしたが、内容に関する調査を行い、結果を報告して対応いたしました。

- ・市内集積場でのロゴ銘板不法投棄・委託廃プラスチックの不法滞留・製造委託品塗料缶の不法保管